

私立大学研究ブランディング事業

29年度の進捗状況

学校法人番号	401013	学校法人名	福岡学園		
大学名	福岡歯科大学				
事業名	高齢者ヘルスプロモーションと地域包括ケアへの口腔医学の展開 ～要介護化阻止と誤嚥性肺炎ゼロを目指して～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	720人
参画組織	口腔歯学部・大学院歯学研究科・医科歯科総合病院				
事業概要	福岡歯科大学は全身の健康を守るために歯科医療を展開する「口腔医学」の理念のもとに、歯学教育を改革してきた。本事業では、この「口腔医学」を大学近郊の高齢化の進む地域に展開し、口腔機能の維持・向上によって認知機能の維持をはかり、要介護化の阻止、誤嚥性肺炎の予防および高いQOLを達成する。社会的・教育的・再生医学的の3つのアプローチにより、地域に「口腔医学」を基盤とする保健・医療・介護を推進する。				
①事業目的	<p>福岡歯科大学の近隣には高齢化率の高い地域があり、そこには要支援・要介護認定を受けた高齢者が多い。今後、この割合が変わらないまま地域の高齢化が進むと、要介護高齢者数は増加し、医療介護資源を逼迫させる。そのような超高齢社会において、QOLを維持する上で「口腔の健康」は重要である。食べる喜びは生活への満足感や生きがいを生み出し、脳および身体の活性化に密接に関与する。口腔機能の向上は、低栄養や誤嚥性肺炎の予防およびサルコペニアやフレイルなどの著しいQOL低下の予防にも重要である。さらに、生涯にわたって咀嚼機能から脳・身体機能までの活性化を図り、高齢者の認知症化を阻止するために、壮年期から口腔の健康の維持を積極的に図る新たな視点が必要になる。</p> <p>そこで、本事業では、現高齢者ととも今後高齢を迎える壮年層を対象に、「口腔医学」により要介護化の阻止と誤嚥性肺炎の予防、そして生涯に亘って口から食べて豊かな生活を維持するために、1) 口腔関連指標とMCIとの関連を明らかにして、認知機能を維持するために口腔健診や介護予防教室を契機としたMCIへの早期介入について検討し、2) 多職種連携により地域高齢者の医療・介護に貢献できる疾患別・病期病態別口腔ケアマニュアルを作成して、それを基にした教育プログラムを作成・実践し、3) 口腔組織の再生医学的研究により口腔機能の維持・向上を達成する技術の創生を試みる。これらの取り組みを通して、「口腔医学」を地域の保健・医療・介護に展開し、またわが国全体へ情報発信する。</p>				
②29年度の実施目標及び実施計画	<p>*【 】内は「達成度評価が可能な指標(達成目標)」を表す。</p> <p>「ブランディング戦略」事業内容(準備状況)の情報発信とブランド認知度調査【オープンキャンパスおよび学園祭展示ブース参加者(計800名)、アンケート回答数(200件)、特集記事・広告など(2件)】</p> <p>「社会的アプローチ」地域在住高齢者MCIスクリーニングシステムの構築【養成スタッフ数(2チーム10名)、学会発表(2題)】、MCI・歯科疾患早期治療のための医療連携網整備【整備数(地域包括ケアセンター5圏域)】、介護予防活動の整備【活動施設調達数(6か所)】と地域高齢者への参加呼びかけ【配布チラシ数(全戸宛て31,420枚)】</p> <p>「教育的アプローチ」組織構成、疾患別・病期病態別口腔ケアマニュアル(新口腔ケアマニュアル)のプロトタイプ作成【学会発表(2題)】</p> <p>「再生医学的アプローチ」幹細胞スフェロイドの培養法の開発【学会発表(3題)】</p> <p>・29年度の実施計画</p> <p>「ブランディング戦略」</p> <p>① 実施準備状況を地域への広報活動によって情報発信し、アンケートによってブランド認知度を調査する。【測定方法】ブランディング事業実施委員会によるアンケート項目決定と認知度のスコア化。</p> <p>「社会的アプローチ」①口腔健診・MCIスクリーニングスタッフを養成する。② 介護予防活動を行なう環境を整備する。③地域認知症相談医等との高齢者医療連携網を構築する。④ 地域住民へ参加勧奨する。【測定方法】活動チームの編成状況の把握。地域包括ケアの連携網構築。回覧板配送による全戸通知、高齢者参加数の調査。</p> <p>「教育的アプローチ」① 高齢者に多い疾患(認知症、肺炎、脳梗塞など)を中心とした各疾患別の病期・病態による全身状態の把握と口腔ケアの重症度を分類する。重症度に応じた新たな口腔ケアマニュアルのプロトタイプを作成する。【測定方法】既存のマニュアルとの比較表の作成、学会発表実績の確認。</p> <p>「再生医学的アプローチ」① 細胞ソーティング、RT-PCRおよびWestern blotting による評価法を用いて、使用する幹細胞の選定およびデバイスの選定によりスフェロイド培養法と分化誘導法を確立する。② バイオ企業と連携して、新規スキャホールドの開発をする。【測定方法】学内研究発表会(H30年3月)および学会発表数の再生医学研究センターによる調査。</p>				

<p>③29年度の事業成果</p>	<p>「ブランディング戦略」</p> <p>①11月21日 朝日新聞において、事業概要の広報記事を掲載 ②12月3日 福岡歯科大学学会において事業概要をポスターにより紹介 ③ 1月6日 医科歯科系大学の8大学と共催した「口腔医学シンポジウム」において事業概要をポスターにより紹介 ④ 1月22日 キックオフシンポジウム ・学長からの事業概要説明 ・各研究チームからの事業紹介 ・記念講演 学外者を含む参加者115名 ⑤1月29日 学内の講師以上が参加する「朝食会」において事業概要を説明 ⑥2月24日 読売新聞夕刊において、事業概要の広報記事を掲載</p> <p>「社会的アプローチ」…地域住民に対するMCI検査の導入を開始し、平成30年3月の時点で58名の当院高齢者歯科外来受診者に対して、MCI判別のためのテストバッテリーの実施と認知症関連血中タンパク質の検査を実施している。また、同時に口腔の検診も実施しており、口腔関連指標と認知症およびMCIとの関係について解析を進めている。 ・学会発表 5件</p> <p>「教育的アプローチ」…本年度は災害時の口腔ケアを含む歯科医療支援テキストを作成し、2回の研修会(災害口腔医学研修会:本学にてプレ研修会および鹿児島県、長崎県)を行った。また、口腔からの感染予防のために、私立歯科大学感染対策協議会にて全17校を対象に、口腔ケアを含む感染対策教育の現状調査・解析を行い、日本歯科医学教育学会にて私立歯科大学全17校を代表して大阪歯科大学とともに学会発表を行った。また、実際の口腔ケア法について、疾患別に各病期・病態に応じたクリニカルパス様の多職種教育用で患者説明用も兼ねた口腔ケアマニュアルのプロトタイプをWGにて作成した。このマニュアルは、来年度に段階的ではあるが学生教育に導入していく予定である。 ・発表論文 1報 ・学会発表 6件</p> <p>「再生医学的アプローチ」…本年度は、骨分化の誘導促進へのBMP、Wntシグナルおよびオートファジー経路の関与を分子生物学的手法で検討を行った。その結果の一部を、学会発表(6報)および論文掲載(2報)した。また、歯周組織の再生療法に向けての基礎実験として、歯根形成への抗がん剤の影響およびセメント質誘導法の検討に関する実験もスタートさせた。成果の一部を学会(2報)で報告した。 ・発表論文 2報 ・学会発表 8件</p>
<p>④29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 今年度の自己点検・評価については、学内で研究ブランディング事業実施委員会を開催し、各チームそれぞれが29年度の進捗状況について報告した。その結果、事前に設定した目標を達成し、事業計画書の実施計画(平成29年度)に沿った研究を行い、実施体制および研究基盤の整備に向けて概ね計画どおりに進捗していることが報告された。併せて、30年度の活動予定も報告があり、今後もブランディング事業の推進を図り、学内外に寄与した研究活動となることが期待される。</p> <p>(外部評価) 正式な外部評価は中間研究報告書を作成する平成31年度に外部評価委員会を開催する事としているが、年1回事業の進捗状況及び成果について外部評価員に意見聴取を行っている。</p>
<p>⑤29年度の補助金の使用状況</p>	<p>事業に関する経費については、研究ブランディング事業実施委員会を開催し、予算金額を設定し、適切に管理した。 広報費:ブランディング事業ホームページを作成し、学内外へ情報発信を行った。 研究費:各チームが事業計画に沿って適切な処理を行った。</p>